

分野：自然への愛着

「親子自然塾三つ又・令和3第1回」

環境アドバイザー

荒木三郎

対象 荒川の自然を守る教職員の会 一般参加
(20人)

所要時間  9時～11時

場所 三つ又沼ビオトープ

実施時期 令和3年4月4日

概要

- ・親子自然塾でしたが親子での参加は少なく、人数の内訳は、大人が多く小学生以下はゼロ、中学生2名、高校生1名でした。解説は大人主体で行う。
- ・春の自然観察、植物、昆虫、両生類、爬虫類を主におこなう。
- ・池では何がいるかな？

プログラムの
ねらい

- ・コマギなどの木本植物の芽吹きや葉のにおいを五感で感じる
- ・希少植物のノウルシの花、ショウブの香りなどや外来種の観察
- ・両生類、ニホンアマガエル、ヌマガエルなどの観察
- ・爬虫類、草原でヒバカリ、ニホンカナヘビを探し観察

プログラムの内容

1 自然観察（90分）

駐車場の草原でカエル探し、アマガエルは日本固有種、ヌマガエルは移入種。園路を歩きながら幼体昆虫探し、ヤブキリ、ナナフシモドキ、カマキリなど。草原で冬眠明けのヘビ探し、幸運にもヒバカリを捕獲、身近に観察できました。植物はノウルシ、ゴマギの花や葉の香りを観察する。池の周囲では県のチョウミドリシジミの卵や池のドブガイを観察する。



2 質疑応答（30分）

ヒバカリについて盛り上がる。ヘビが嫌いな人が良く見つけることが多い。以前はこのヘビに噛まれると、その日ばかりで死んでしまう、名前の由来です。

受講者の反応

この時期に昆虫などはいないと思っていた人が多く、草のなかをよく探すと昆虫は見つかります。こんなに虫やヘビが身近に見られるならば、次回は子供や孫を連れてきたい。ショウブやゴマギの葉が、いい匂いがするとはビックリでした。

